

『ぼくは勉強が得意な』

対象学年／中学生以上

勉強は大切です。しかし、勉強だけが得意というのではどうでしょうか。勉強さえできれば、幸せな生活が送れると思いますか。この本は、勉強が得意なけれど、イケメンで人気者で女の子にもてる高校生の主人公が、日常生活の中で感じている悩みや不満について考える話です。

私は勉強のできる友人にこの本を紹介してもらい、松桜塾で借りて読んだのですが、自分で買うほどにまで惚れ込んでしまいました。うすうす感じていた世の中の真実について考えさせられ、人生、きれいごとばかりや悩みなしではつまらないと感じました。

筆者は大人にこそ読んでほしいとあとがきに書いています。しかし、一般的にはくだらないと言われるような思春期特有の様々な悩みを抱える中高生にこそ、この本を読んでさらに悩んでもらいたいです。そして、人間としての面白みをおねえた大人になってもらいたいと思います。



山田詠美 著
新潮文庫

(辰馬)

コクゴのチカラ

Vol.48

松桜塾 662-0036 西宮市大井手町 3-11 夙川ビル 2F
TEL 0798-74-2801 FAX 0798-74-8686
info@glt-shouou.com http://www.glt-shouou.com/ 2023年10月10日発行(第48号)

イベントのお知らせ

親だって松桜塾 『誰でも読める・深く学べる読書会』

読書には様々な効能があります。娯楽・学び・問題解決のヒント。それらを一気に味わいましょう。読書好きな方も、普段は読まないけれど挑戦してみたい方もぜひご参加ください。

日時：10月29日(日) 10:30～12:00
対象：保護者および中高生以上 料金：1,100円(税込)

松桜塾親の会 『将来を見据えた塾選びと学習法』

塾はたくさんあるけれど、どの塾が我が子に適しているのかお悩みの方は多いと思います。塾の新年度が始まる前に、効果的な学習法と塾選びのポイントを整理しましょう。

日時：11月26日(日) 10:30～12:00
対象：保護者(ごなたでも) 料金：1,100円(税込)

※案内はHPで配信いたします。詳細はHPをご覧ください。

保護者向け講座

日程	時間	講座	タイトル
10/29 (日)	10:30～12:00	親だって松桜塾(総集)	誰でも読める・深く学べる秋の読書会
11/26 (日)	10:30～12:00	親の会	将来を見据えた塾選びと学習法
12/17 (日)	10:30～12:00	親の会～質問編～	文章題が解けるようになる！家庭学習のコツ
	13:30～15:00	親の会～国語編～	もう、記述問題に悩まない！家庭学習のコツ
2/18 (日)	10:30～12:30	入試分析会 Part1	最新の入試を詳しく解説！中学入試の傾向
3/17 (日)	10:30～12:00	入試分析会 Part2	知っておきたい高校・大学入試の傾向と対策
	13:30～15:00	親だって松桜塾(総集)	ロジックと読解 構造的読解とは何か

陽 光と読書



幼い時から、私の身近には本がありました。図書館にも連れて行ってもらいましたが、いいと思う本はふんだんに買ってもらえました。そのおかげで、好きな本は何度も読み返し、読まなくても本棚の背表紙を見てときどきその内容を思い出すことができました。そして、「買う」「時々読み返す」は今の私の習慣になりました。

同じ本でも時を隔てて何度も読み返すと、沸き起こる思考や感情がその度に異なります。たとえば、小学生のころは「秘密の花園」(バーネット作)の主人公メアリは性格が悪すぎて共感できませんでした。「小公子」や「小公女」のような教訓的なものも読めず、名著と言われていてもいい本とは思えずにいました。しかし、大学生のころに読んだ河合隼雄氏の文章にその内容が触れられていたことから、読み直す機会を得ました。すると、一人の人間の心の成長や再生を感じる事ができ、当時の自分自身に感じていた未熟さや孤独さも癒されたのを思い出します。今改めて読むと、また感じが異なり、にくたらしく感じた登場人物の言動も、現実の子どもたちと重ねて、「あらあら素直じゃないのね」と愛しく感じます。近代社会の問題点など、見えなかったものごとや、以前は気付かなかった人物の言動の意味など考えることが増えます。

「夜と霧」(フランクル著)も私が高校生の時、そして大学生の時、その後大人になってから読み直しています。毎度得るものが違います。高校生の時に感じた震えや恐怖、そしてほんやりとしか分からなかった生きる意味について考える体験は、大人になった今では得られません。それは、ピュアな精神と感受性

レギュラー生への案内

月謝引き落とし

11月度 10月27日(金)
12月度 11月27日(月)

祝日による休塾日

10月9日(月) スポーツの日
*この日の振替は必要ありません
11月23日(木) 勤労感謝の日
*木曜日の通塾生は授業を振り替えてください。

授業回数調整による休塾期間

10月31日(火)～11月4日(土)
*この期間の振替は必要ありません。

冬期講習期間

12月18日(月)～1月5日(金)

*冬期講習中も通常授業は行います。
*欠席の予定がある方、振替を申し込まれる方は早めにお知らせください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。「ご意見・ご感想などぜひお聞かせください。また、本紙の配信がご不要の場合、下記QRコードよりお手続きください。



のあったあの時にしか得られなかったもので、今となっては宝物です。それを共有したくて教室で高校生の教材としても用いています。

読書感想文は是非の論争もあり、また夏の恒例の宿題の作文もかつてよりずっと減りました。悩まされるものが減ったと同時に、子供たちは本当に本を読まない、特に娯楽とはかけ離れた本をじっくり何度も読む機会を失っているのではないかと危惧しています。読書感想文はチャットGPTにも書けます。本を読まなくとも分かるよう10分程度で内容を要約したサイトも人気です。しかし、そういうものを用いても、「読書体験」自体は、自分自身が繰り返し本を読むことでしか得られません。そして、それなしに自分の生き方の主軸を作り修正していく作業はできません。本から人生や本質的なことについて何かを得たり、本を元に新しい体験をしたりするには、その本を自分が読むしかありません。しかし、それと同様に、私が河合隼雄氏の本で魅力を再発見したのと同じく、誰かのレクチャーや助けを得て、本を読む技術を身につけることが大切だと思えます。有名な「国家」(プラトン著)には、洞窟の中に生まれ、手足を縛られて「影絵芝居」だけを見ていた人間が、別の人に無理に陽光のもとに引き出されていく話があります。おこがましいですが、松桜塾はそのささやかな陽光を見せる役割を果たしていき、子どもの、そして大人にも本を通して人生の主軸を作る手伝いをしたいと思っています。(松末)

- 一面 『陽光と読書』
- 二面 『おすすめ図書紹介』
- 三面 『ライブ러리紹介48』
- 四面 『イベントのお知らせ』



『レギュラー生への案内』

おすすめ図書の紹介

文章を正しく読み込み、深く考えるために必要なものは何でしょうか。一つは文法的に正しい言葉の運用能力を持っていることでしょうか。そして、様々な言葉についての理解があることも欠かせません。

これは、暗記もののようにただ形式的に知っているのとは異なります。その言葉が他の事柄と結び付いていなければなりません。例えば、コーヒーの単語だけを知っているのと、そこから「飲み物」「眠気覚まし」「プランテーション」などそれにまつわる事が連想できるのでは、まるで違います。言葉の理解の程度如何で同じ文章を読んでも分かる内容が変わってきます。

では、こういった情報相互に意味のつながりを持たせ拡大していくには何をすれば良いのでしょうか。それは、ある言葉や概念に接する機会を多く持つことです。出会う場面が増すほど、言葉と事柄の関係性はより強く、広くなります。読書はこの機会の最たるものです。例えば、一冊物語を読むとします。その際、もちろんそこに書かれたテーマや内容について考えを巡らせますが、同時にその時代背景、当時の価値観などにも触れることができます。すると、授業で習った「〇〇時代」や「〇〇主義」といった単語がそれらと結びつき、イメージをともなった確かな知識として自分の中に位置づけられます。学びは事柄間に関係性を持たせ、知のネットワークを作っていく作業といえます。そして、必要

か、偶然ではなく理由があるのだと気づかされます。そして、これらは現代社会が抱える問題にも関係します。資本主義・世界の二極化・食料問題・環境破壊など、多くのことがこの一冊で学べます。評論文を読むのに必要な教養としても、日本・世界のことを知るためにも、読んでみてください。

本書でも紹介されている『砂糖の世界史』や『新世の「資本論」』もお勧めです。

『目の見えない人は世界をどう見ているのか』



「見る」とはどういうことを言うのでしょうか。辞書で意味を引くと「見る」は目でものの形や色などを感じとる、調べる、などと書かれています。そして、私たちはこの「見る」行為に大きく依存しています。外界から得る情報の八割は視覚由来だといわれるほどです。では、目を使わなければ本当に世界を「見る」ことはできないのでしょうか。目の見えない人は、世界と関わるための重要なツールを奪われているのでしょうか。

こういった「目の見える人」視点の考え方を根底から変えてくれるのが本書です。「見える」ことで私たちがいかに狭い世界に閉じ込められているのか、見ているつもりで見えていなかったと明らかにあります。

読書をはじめとした学びの意義はこの点にもあるのではないのでしょうか。新しい価値観、考えを知ることが、固定されたものの見方を破壊し、私たち

な時にいつでも使える力強い武器となるのです。これは人生における問題や悩みを解決する際にも助けとなってくれるはずです。

これまでも、本紙では何度か物語を中心に本の紹介をしてきました。今回は皆さんの知識の体系を多角度から広げてもらえるよう、ジャンル別にご紹介します。

☆小学高学年向け「科学」「教育学」

『空気の発見』



私たちは「空気」という言葉をあまり意識せずに使います。しかし、その発見の背後には科学者たちの人生をかけた研究があります。結果だけでなくそこに至る過程を知ることの面白さをこの本は教えてくれます。例えば、科学者たちの仮定を立て検証する科学的態度は、私たちが目標達成するときの参考になります。複数ある道筋から一つを選ぶとき、こうなるだろうと予測ができなければなりません。また、思い込みが科学の発展を阻害した例からは、現実を歪めず直視することの大切さを教えられます。科学史、人生訓、読み方次第で得られるものも広がります。

本書は平易な書き方で小学生から読むことができます。しかし、その内容は高校生が読む評論文に通ずるものもあります。テーマや言葉についての知識があれば、初見の文章の理解度も大きく変わってきます。年齢問わず、ぜひ読んでみてください。



をより自由にしてくれます。それが教養の本質だと思います。知れば知るほど自由になれる、その楽しさをぜひ経験してほしいと思います。

著者は「美学」の専門家です。美学といわれるとつい芸術的なものだと思ってしまうますが、本書で示される新しい視点は、建築・公共政策・福祉などにも取り入れられるものだといえます。本書の著者の入門書として『みえるとか、みえないとか』、高校生なら『手の倫理』がよいのではないのでしょうか。美術芸術分野の視点を日常に応用する方法が書かれた『13歳からのアート思考』もお勧めです。

『はじめて学ぶ環境倫理』



環境問題について例をあげ、その解決方法を述べなさい。もし、そんな問いが試験で出題されたら皆さんはどのように答えますか。意外に難しいのではないのでしょうか。気候変動・海洋汚染など、例を挙げることはできても、その実を詳しくは知らない。だから、解決方法まで思いつかない、どうしよう……。実は、この経験は貴重なチャンスです。環境について考える一歩を踏み出したのですから。そして、その入門に適しているのが本書です。前提となる知識がなくとも読み進められます。読後はきっと新しい

観点で世の中が見えてくるでしょう。「現世代は、将来世代を配慮した上で意思決定しなければならぬ」という世代間倫理から再度身の回りを眺めれば、何が問題なのか見えてくるはずです。その上で、最初の質問について考えてみてください。

『ミライの授業』

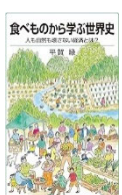


「VUCA」という言葉がよく聞かれるようになってきました。不安定で不確実、複雑で曖昧。そのような社会で、私たちはどう生きていけばいいのでしょうか。その手がかりが偉人・賢人たちの生き様に見つけられます。

この本は実業家、看護師、科学者、デザイナー、など各分野から社会を切り開いた人々を取り上げています。彼らの思考方法・行動様式は、私たちが自分の未来を作っていくときのヒントになります。他の本と一味違うのは、やってはいけないお手本としても偉人が紹介されていることです。成功のコツはもちろんですが、失敗の「秘訣」も役に立つものです。有名な人たちの意外な一面を知ることでもできるお勧めの一冊です。

☆中高生年向け「世界史」「社会科学」「環境」

『食べものから学ぶ世界史』



世界史と言えば、年号や出来事、人物名をひたすら暗記するものという印象をお持ちかも知れません。苦手意識を持つ方もいるでしょう。ですが、なぜそうなったのかという視点があれば、歴史は物語になり楽しいものへと変化します。

本作は経済社会の成り立ちについて、食べ物を通して説明してくれています。砂糖・小麦粉・トウモロコシがなぜここまで今の生活に浸透しているの

中学生からもお勧めの本の寄稿をもらいました。

『13歳からの地政学』



なぜ国は今よりもっと多くの領土を求めめるのか？今の領土で満足すれば争わなくていいのになぜ戦争が起きるのか？戦争は悲劇を生むということをみんな知っているのに。なぜ国に貧富の差があるのか？経済成長や円安は私の生活とどう関係があるのか？

子どもの私にはどうせわからないだろうと思って考えてもみなかったこと、わかったつもりで納得できていなかった疑問。それらを解消するきっかけくれた本が『13歳からの地政学』です。

歴史や地理は学校でも習いますが、今まで「地政学」は聞いたことがありませんでした。それでも、カイゾクさんの話を読んでいくうちに歴史や政治のことが少し分かり、世界の見え方が変わってきます。そして、この本を読んだあとは、ロシアのウクライナへの侵攻についてのニュースも前とは違う視点から考えられるようになりました。世界はつながっていて、どんな遠い国のことも他人事ではなく、どんなことも自分に関係するのだと初めて納得がきました。

物語調のこの本はとても読みやすく内容がすすめる頭に入ってきます。みなさんもぜひ読んでみてください。(中2 M・Tさん)

(中野・小野寺)